

第1章 市川の景観特性と課題

1 景観の成り立ち

本市の景観は様々な歴史的背景のなかで培われてきたものであり、景観を考える場合には、そのような背景を見直す必要があります。ここでは、地形や歴史をたどり、市川の景観の成り立ちをまとめます。

【1】地形の成り立ち

本市の地形は大きく分けると東葛台地と行徳低地からできています。

東葛台地は下総台地の西南端にあたり、市の北部、面積にして約1／3がこの台地で占められています。台地上には国府台、国分、曾谷、柏井、若宮などのまちが広がり、現在も台のつく地名（字名）が残されています。台地面は広く平坦ですが、台地が低地を臨むところには急な崖（斜面）になっているところが多く、真間の地名は急崖を意味するともいわれています。

台地の南は海岸まで行徳低地と呼ばれる平坦な地形が広がっています。低地は国分川と大柏川に沿って台地を大きく割って北に延び（国分谷、大柏谷）、さらにそこから谷津と呼ばれる細かな枝状の狭い谷となって、台地と入り組んだ複雑な地形を形づくっています。

また、東葛台地と行徳低地の間には、川や海の侵食で台地が流し取られてできた千葉段丘という階段状の地形が見られます。

1) 台地と低地の形成

今から約15万年前、現在の関東平野は古東京湾（ことうきょわん）と呼ばれる海の底でしたが、海底にはしだいに土砂が堆積して浅くなり、氷河期に入って海岸線が後退したことから、約8万年前には海底が地上に現れるようになりました。古東京湾の陸化とともに、古東京川と呼ばれる大きな川が谷を刻み、およそ2万年前には、現在の大柏川や国分川のある谷が形成されたと考えられています。

およそ5千年前、氷河期が終わり暖かくなって海水面が上昇すると、古東京湾は栃木県にまで入り江を作り、市川の半分ほどが再び海となりました。押し寄せた海水は台地を削り、残された部分が現在の台地となっています。台地面には箱根山や富士山の噴火による火山灰が厚く堆積して関東ローム層を形成し、その厚さは7～12メートルほどに達します。

栃木県にまでおよんだ古東京湾の入り江は、やがて川が運ぶ砂によって埋められ、いまの大柏川と国分川のある谷にあたる入り江も砂や泥がたまって浅くなり、約1000年前には現在の低地にあたる部分が陸化され、現在の地形の原形がつけられました。

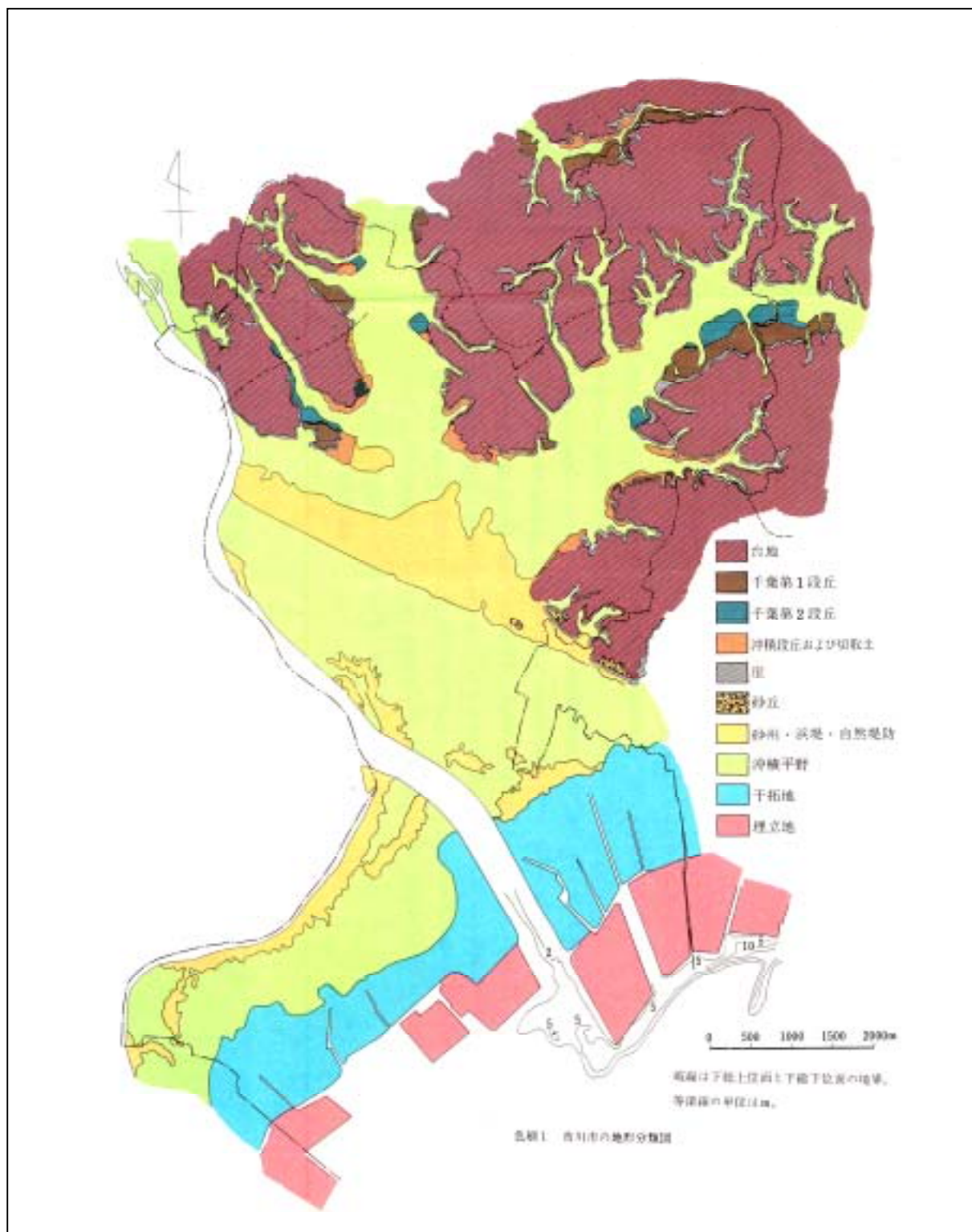
2) 市の特徴をつくる市川砂州

千葉街道沿いに南北0.5km～1km、東西4kmにわたって周りに比べてやや高く砂質を多く含んだ地形が続いています。この部分が市川砂州と呼ばれる地帯で、南北の低地より4～10mほど高くなっています。これは、今の低地が海だったところに台地の縁が波で削られ海流と川の流れのバランスで堆積してできたものです。

3) 江戸川や海によってつくられた自然堤防

旧江戸川沿いは2～3mほど高い地形がありますが、これは江戸川が氾濫のたびに土砂を積み上げてつくった自然堤防です。また、高谷、原木、二俣あたりにも周辺より高い微高地があり、これらの微高地は波が海岸の砂を打上げてつくった浜堤（はまづつみ）と考えられています。現在、行徳の旧市街地や原木などに古いお寺が残されているのは、こうした地形的な要因が考えられます。

市川市の地形 (出典:市川市史)



【2】 歴史的成り立ち

1) 古代 ―― 海だった現在の低地部、台地上の貝塚や古墳

縄文時代、台地上は遠浅の入り江となっていて絶好の漁場であったことから、人々が暮らすようになり、現在でも台地の先端部に貝塚が多く残されています。

弥生時代に入ると台地上に農業集落が広がり、この頃の遺跡として小塚山遺跡、殿台遺跡、杉の木台遺跡が残されています。

古墳時代には水田稲作を中心とした農耕社会が定着して豪族が誕生し、その名残りとして国府台の台地には国府台古墳、法皇塚古墳、丸山古墳が群集しています。



○縄文時代の市川
縄文時代の市川（約6,000年前）

2) 古代から中世 ―― 寺社と城

①下総国の国府の成立、万葉の舞台として

大化の改新のあと、市川には下総の国の国府が置かれ、文人などが多く往来する土地となりました。山部赤人らによって手児奈の歌が詠(よ)まれたのもこの頃のことです。また、国府台と市川砂州にはさまれた真間の地は万葉の舞台となり、今日に至るまで多くの歌に詠まれています。



○真間の紅葉 (安藤広重「名所江戸百景」)



○真間の手児奈 (出典: 成田参詣記)

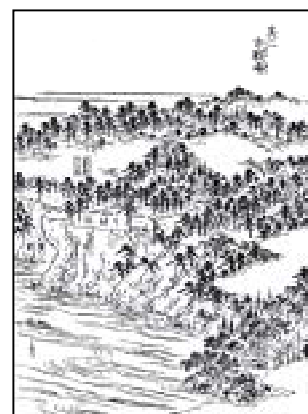
②平将門の伝説

平安末期には、平将門が中央政府に対して新政権を立てようと企てました。市内にも殿台、御門、迎米に平将門伝説が残されています。

③主要な寺社、城などの形成

鎌倉時代に入ると全国に守護が置かれていましたが、下総の守護は市川に置かれたと考えられています。また、この頃に中山法華経寺が建立されています。

室町時代に入ると、関東地方では北条氏の支配が広がりましたが、その過程では、北条氏と里見氏による国府台の合戦も行われています。この時代、台地上には国府台城が築かれていました。



○国府台の古戦場
(出典: 江戸名所図会)

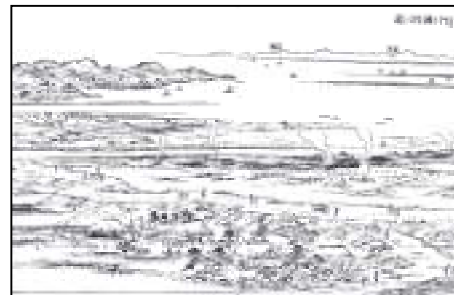
3) 近世 ―― 市川の歴史景観の基礎としての街道、寺社、産業

①農業の拡大と用水路の開削

江戸時代に入ると、北部では、台地上の畑と谷の水田を耕作する純農村として集落が広がり、水田を望む緩斜面上には屋敷も見られました。水田には用排水の安定が大切となり、内匠堀（鎌ヶ谷、八幡、行徳）などの用排水路がこの頃につくられています。また、市川砂州を中心に、明和6年川上善六が美濃から導入した梨栽培が盛んに行われていました。（明治27年総武本線の開通とともに北部へ）

②行徳塩業の発展

南部の行徳では、江戸川左岸の自然堤防（微高地）上の村々とその東側に広がる浜辺など、立地を活かして塩業が成立しました。行徳塩業は、幕府の保護のもとに発展し、長く昭和20年代まで続きました。最後の塩田が消滅したのは昭和24年とされています。



○行徳塩浜（出典：江戸名所図会）

③寺社の定着と増加

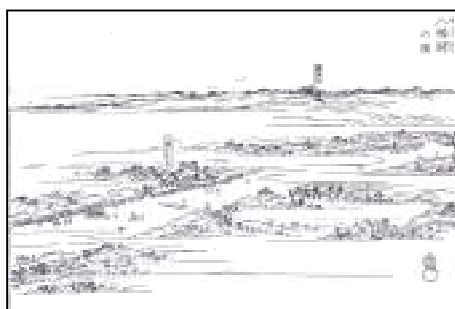
江戸時代に入ると仏教の大衆化が進み、人々のより所として寺社が増加していきました。また、各所での祠や石造物はこの頃につくられたものが多くなっています。

④主要街道の成立(佐倉道、成田道など)

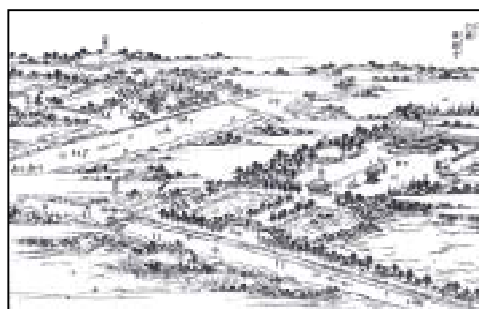
この頃、交通路が急速に発展し、参勤交代や成田山への参拝など交通が頻繁になり、八幡と行徳は宿駅として発展していきます。

佐倉道（上総道）は江戸時代の重要な街道であり、参勤交代や成田山への参拝の民衆などで賑わい、八幡では街道筋に街並みがつくられ宿場町となっていました。

成田道は行徳河岸から下妙典、田尻、原木、二俣などを通り成田へ向かう庶民の道として賑わい、行徳地域の成田道沿いには集落がつくられていました。



○佐倉道（八幡）（出典：江戸名所図会）

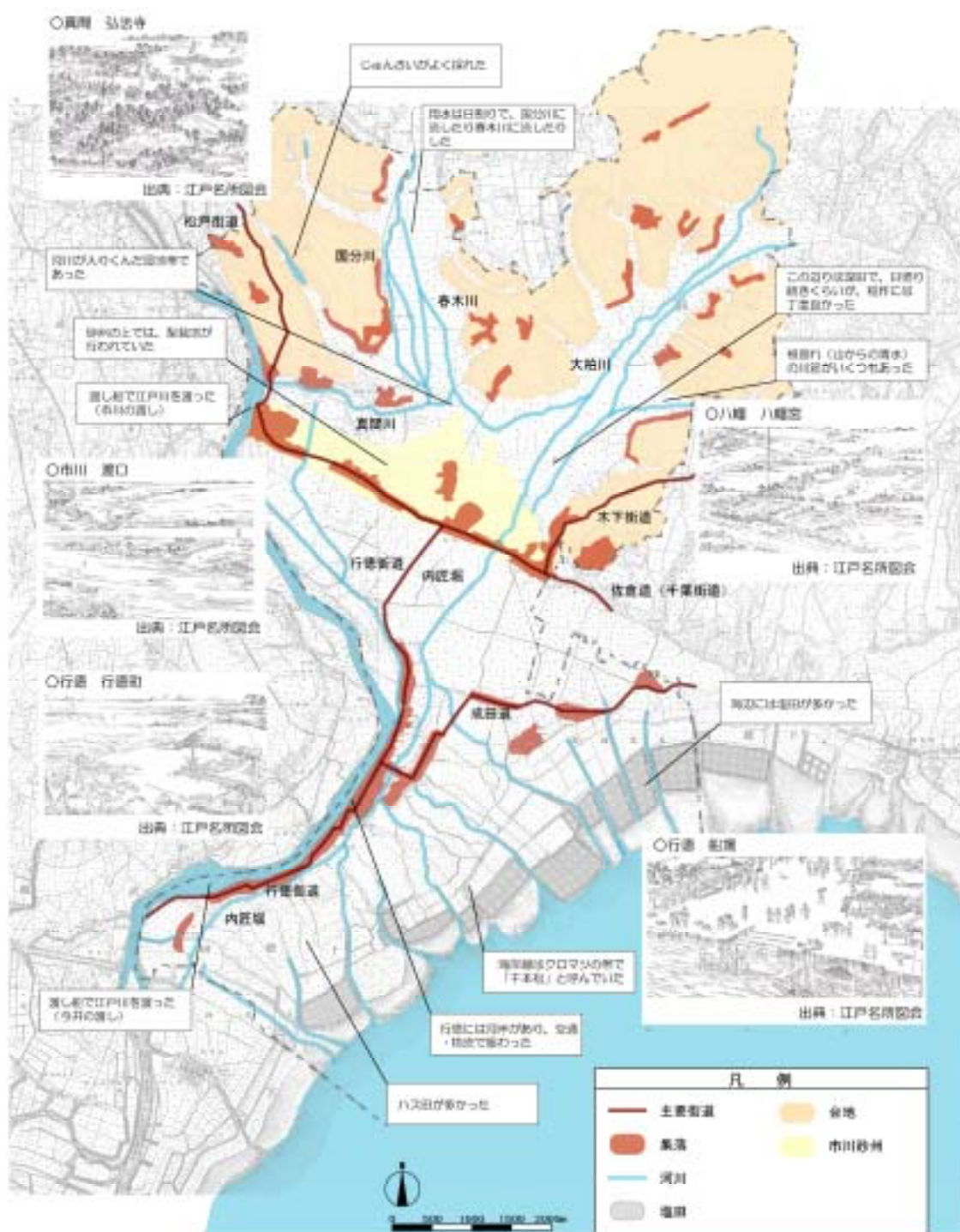


○成田道（行徳 徳願寺前）（出典：江戸名所図会）

⑤舟運の発達

江戸の水害問題から、利根川の流路を銚子まで伸ばしたことにより、本流であった江戸川は支流となり、東北方面からの物資の運搬や人々の往来に重要な役割を果たす交通路として利用されるようになりました。また、行徳で生産された塩を直接江戸へ運ぶための水路が開削され、本行徳村を新河岸とした定期船が往来し江戸と強く結ばれていきました。

市川の歴史マップ (江戸から明治)

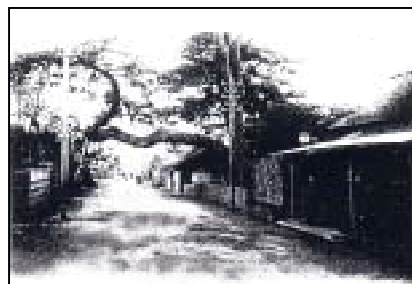


4) 近代 ―― 農村景観から都市的な景観へ

①農村風景を中心とした明治初期

明治初期の市内のまちのほとんどは農村地帯であり、市川の渡し付近に集落があるだけで、千葉街道沿いに家が点々とするほかは梨畑と桃畑が連なり、ところどころに梅林がありました。

千葉街道から南は水田地帯で、後年、総武鉄道が開通した後も、真間川を中心とした一帯には水田があり、真間山上から眺めると、遠く江戸川の流れを背景に、果樹畑と田が織りなすななかなを黒い煙を吐きながら汽車が通り過ぎるのが見えるのどかな田園風景が広がっていたといえます。



○明治時代の市川(三本松付近)

一方、行徳宿は東京への汽船便が行徳を経由していたことから、市内でも一番繁栄していました。また、中山村は、中山法華経寺に多くの参詣者が訪れ、山門外には茶店もあって門前町をなしていました。

②軍隊の進出、鉄道の開通と市街化のはじまり

明治 17 年に軍隊(陸軍教導団)が国府台の地に置かれると、市街化が進み、根本を中心に商店も増えていきました。明治 27 年に総武鉄道が開通し、明治 38 年には江戸川橋が架設され、都市としての基盤も徐々に整ってきました。江戸川の水運も発展し、東京から埼玉までを結ぶ蒸気船も登場するなど、行徳は交通の要衝として一層の発展を見せました。

大正 3 年、江戸川から市川新田間に京成電車が開通し(その後徐々に延伸)、本格的な都市化がはじまりました。人口も急激に増加し、市川砂州上は梨畑から郊外田園都市へと変化するとともに、国府台にかけての地は、近現代の多くの文学作品の舞台となっています。

③耕地整理の進展

真間川は、大正初期までは菅野付近で止まっており、須和田から菅野にかけて広大な沼地が広がっていました。そのため、川沿いでは水害に悩まされ、その解消に向けて、真間川を原木の海へつなが改修が行われ、千葉街道南側の広大な地域では耕地整理が実施されました(大正 8 年完了)。このあと、この地域では、徐々に住宅地としての性格を持つようになっていきました。

④江戸川放水路の開削(現在の「江戸川」と「旧江戸川」の成立、旧街道の分断)

江戸川の水害を防ぐため、江戸川大改修工事(明治 44 年)、放水路(現在の江戸川)の開削(大正 5～8 年)が行われ、これまで成田道とともに発展(定期船の往来もあった)した行徳は分断され、鉄道開通による江戸川水運の衰退も加わって、行徳は交通の要衝(ようしょう)としての性格を変えていくことになりました。



○大正時代の行徳街道(本行徳付近)

⑤関東大震災後の人口流入と住宅地化

関東大震災後、市内の親類や知人を頼って仮宿を求めた人々は、農作物が豊富で自然環境にも恵まれた住宅地としての本市を注目するようになり、市内に避難していた人や生活に不安を抱えていた東京下町の人たちの移住が続き、東京へ通う人たちが急激に増加するようになって、鉄道周辺に住宅地が広がっていきました。

[illegible]

5) 現代 ―― 都市化の進展

①市域の拡大(町村合併)と都市としての発展

昭和9年、市川町、八幡町、中山町、国分村が合併し、市制が施行されました。翌10年には総武本線本八幡駅が開設され、市役所が置かれた八幡地区も発展をはじめました。この時代、昭和17年頃までは、人口は徐々に増加するにとどまっており、郊外の田園都市的な風情を残していました。



○市川の旧町村

②市街化の急激な進展と自然環境の減少

本格的に市街化がはじまったのは、戦後昭和35年以降の急激な人口流入からです。

昭和24年に大柏村、昭和30年に行徳町、昭和31年には南行徳町と合併し市域も広がるとともに、臨海部の埋立地には大工場が進出し、駅周辺には商業・業務施設が集まり、南北の田園地帯でも宅地化が急激に進みました。行徳地区では、昭和43年の東西線の開通によって宅地化が進み、埋め立て事業の進展、水田地帯の土地区画整理事業などにより、旧江戸川沿いの古くからの市街地とともに、都会的な住宅地が広がっていきました。

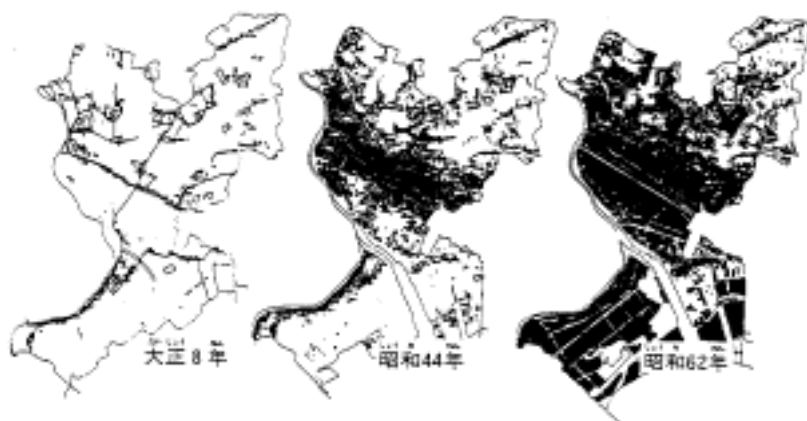


○昭和30年代の本八幡駅前



○昭和40年代の市川駅前

住宅地の変遷



緑地 (林) の変遷

大正 8 年頃には台地を縁どるかたちで斜面林が見られ、北部にはまとまった樹林地なども見られています。その後、斜面林の連続性がなくなり北部の樹林密度も薄くなっていきました。



果樹園の変遷

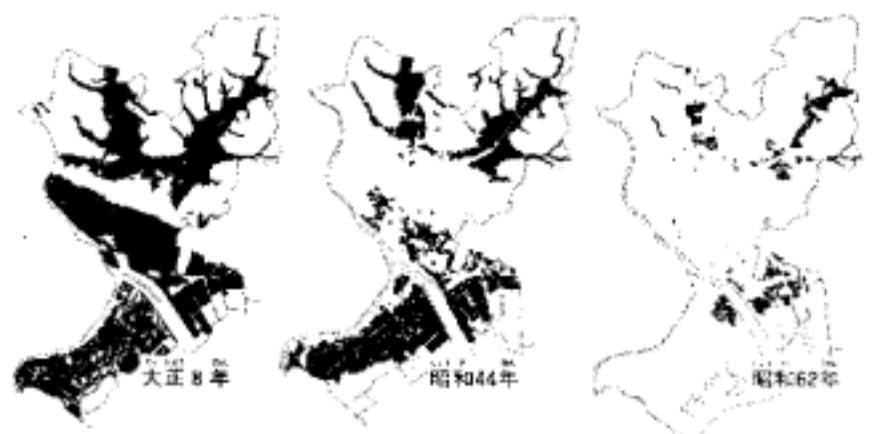
江戸時代末期に川上善六によって導入された梨栽培や明治から始まった苺 (イチゴ) 栽培などが市川砂州を中心に営まれていました。その後、大正時代の人口増加により果樹園は北部へ移動し現在に至っています。現在、大町地区は農業振興地域に指定されています。



水田の変遷

明治から大正にかけては低地のほとんどが水田として利用されていました。大正時代には、水田環境の改善を目的とした耕地整理も行われていきました。

しかし、戦後の人口増加によって中心部の宅地化が進み、行徳地区の区画整理により南部の水田もなくなっていきました。



2 景観要素と特性

本市の成り立ちの中から育まれてきた景観を構成する基本要素を抽出し、それぞれの景観特性を整理します。

【1】自然景観

1) 台地と低地の変化に富んだ地形

北部（国府台、国分、曾谷から大町にかけて）や東部（柏井、北方、若宮付近）に広がる下総台地、東京湾から国分川と大柏川に沿って広がる低地、台地を割ってのびる「谷津」（やつ）の地形が本市の特徴となっており、この地形を基礎として市の景観が形づくられています。

2) 斜面林と樹林

東京から市内に入る総武本線の車窓から、まず目に入るのは国府台の斜面林で、都会的な雰囲気から一転して緑の壁が広がる様はあまりにも印象的です。このため、市のイメージは、東京に接するにもかかわらず、緑との関連で語られることが多くなります。

この斜面林は台地と低地の境となる斜面に広がり、宅地化の進展のなかで、急斜面を中心に現在でも相当数の樹林が残り、印象的な市の景観を形成しています。また、台地上には、かつて薪や炭の生産や堆肥の原料にする落ち葉を採取したという、落葉広葉樹を中心とした雑木林も見られます。これらの樹林が緑の景観として特徴的な景観をつくっています。



○国府台の斜面緑地（江戸川より）



○柏井の樹林

3) 「市川砂州」とクロマツ景観

千葉街道沿いには「市川砂州」と呼ばれる地形が広がり、かつて防砂林などに利用されたクロマツが集団的に生育しています。この砂州上ではクロマツと落ち着いた住宅地が調和した独特な景観を見ることができます。クロマツについては江戸時代の絵にも描かれており、数百年経過しているものも少なくありません。



○八幡のクロマツ



○菅野のクロマツ

4) まちなかに点在する緑の景観

まちなかには、巨木や古木も見られ地域の景観木となっています。これらは、寺社に多く見られ、最も多い樹種はスダジイであり、次いでケヤキ、イチョウ、クスノキ、タブノキとなっています。



○寺社の景観木 (国分寺)

5) 農地

本市の歴史を考えると土地利用の中心は農業であり、台地上では畑作が、低地では稲作が長い間営まれてきました。宅地化の進行により、この農地も現在では減少していますが、大町は農業振興地域に指定されており、梨栽培（生産量は年間約 7,500 トン、生産額は約 30 億円）は千葉県下一を誇ります。また、市街地の中には生産緑地も多く存在し、野菜や花なども盛んに生産されるなど、これらの農地景観も市の特徴となっています。



○大町の梨栽培

6) 広がりのある河川の景観

江戸川および旧江戸川は、開放感あふれる空間であり人々のやすらぎや憩いの場、あるいは自然環境にふれあう場として親しまれています。また堤防上は見はらしが良く、まちの広がり眺めることができる重要な視点場（眺望点）ともなっています。

真間川、大柏川、国分川などは、まちなかでは貴重な広がりのある空間、支流を含めた郊外では生態系を育む場となっています。これらの河川景観は市の景観の骨格をなし、江戸川水系は“縁”の、真間川水系は“背骨”の役割を果たしています。



○広大な江戸川

7) 東京湾と三番瀬

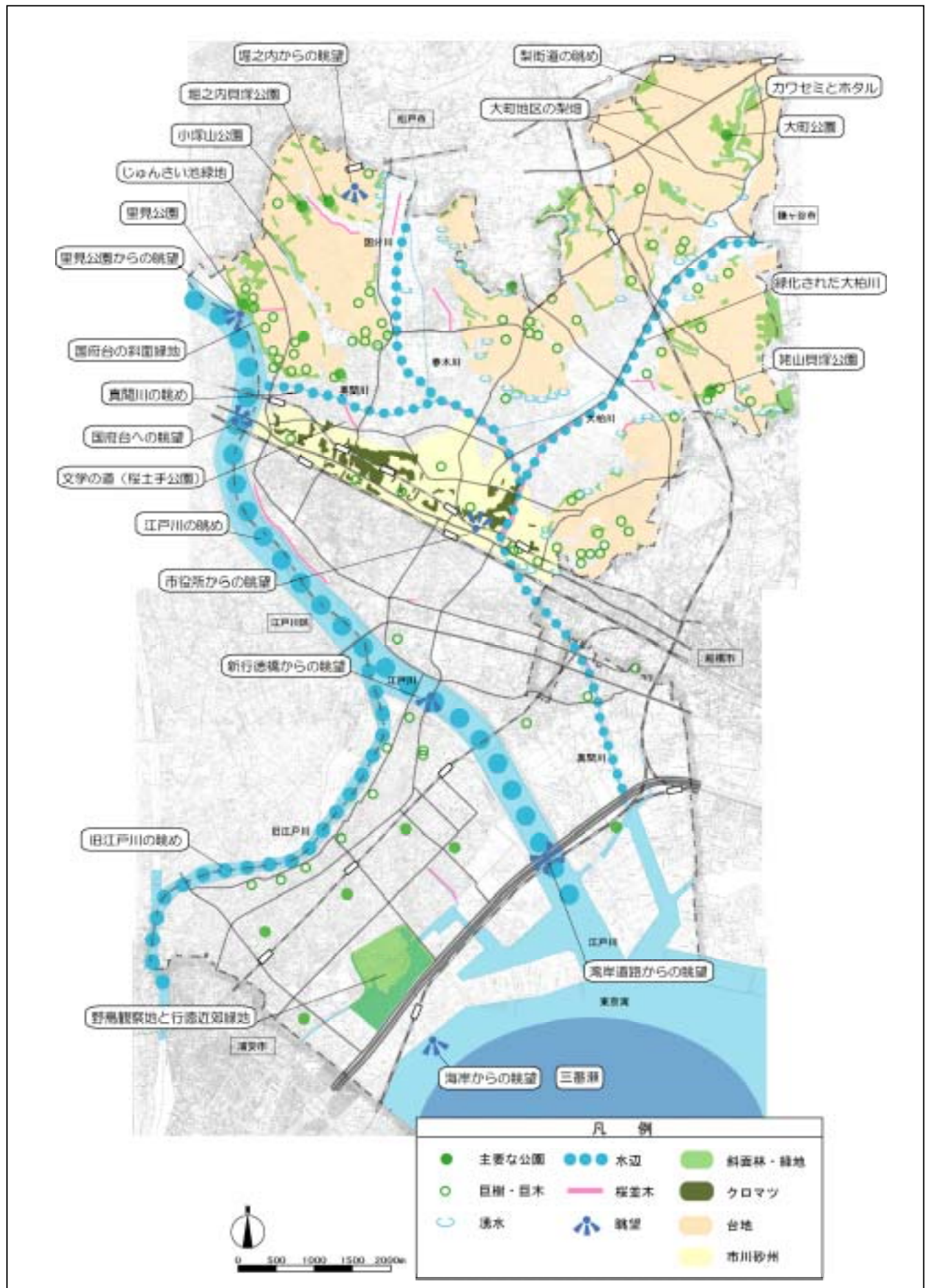
市川沖では昭和 30 年代の後半から埋立て事業が行なわれ、本来の海岸線から 1 km ほどの間が工業地となっています。海辺は直立護岸となっているため、直接、海にふれることはできませんが、市川沖から船橋沖までは三番瀬と呼ばれる浅瀬域となっており、貴重な自然環境が残され、渡り鳥の飛来など多様な生物の生息する場にもなっています。

また、市川沖では古くは塩づくりから始まり、海苔づくりや現在では浅海養殖漁業も行われているなど、浅瀬や干潟は大切な漁業の場となっています。



○東京湾の水辺景観

自然景観の基本要素



【2】歴史・文化の景観

1) 寺社、参道、寺町などの歴史的風情

市内には、かつての街道沿いに中山法華経寺や葛飾八幡宮、弘法寺などの市を代表する寺社があり、街道と寺社とを結ぶ参道がつくられています。これらの参道（大門通り、中山参道）は、かつての門前町ほどの賑いは見られませんが、点在する歴史的な資源の散歩道や身近な商店街として地域に親しまれています。

また、行徳や国分、大野、宮久保、原木などの地域にも多くの寺社が残されています。特に土地の守り神をまつる神社は昔から村人の信仰を集め、収穫祭などが行われ、現在でも多くの伝統行事が受け継がれています。

これらの寺社空間は、川の空間と斜面林、農地とをつなぐ役割を果たしており、また、寺社林には巨木・古木も多く、景観木、景観樹林として地域のランドマークになっています。



○中山法華経寺の参道

2) 旧街道や歴史的なまち

本市は、かつては千葉街道（佐倉道）、行徳街道、成田道などの主要街道や木下街道などが行き交う交通の要衝になっており、街道沿いを中心にまちがつくられていました。現在でも行徳街道沿いには町屋づくりの商家が残され、河岸として栄えた往時をしのぶことができます。

また、徳川家康が鷹狩りに行く際に通ったといわれる行徳の権現道沿いには、現在でも多くの寺社があり、当時の風情を醸(かも)し出しているなど、市内には歴史性のある細道も残されています。

これらの道は、都市化とともに歴史性は薄らいだものの、かつての景観や歴史をたどる手がかりとしてそれぞれの地域にあって重要な景観要素となっています。



○行徳街道のまち並み

3) 遺跡や祠、石碑、歴史的な建築物

北部の台地上には多くの遺跡（曾谷貝塚、姥山貝塚、古墳等）があり、古くから人々が暮らしていた痕跡をたどることができます。また、多くの祠や石造物なども残されています。

寺社には疱瘡神(ほうそうしん)、弁財天(財宝の神)、馬頭観音などがよく見られますが、行徳では水神や竜神が、道の入り組んでいた北部では道祖神・道標、地藏尊が多く見られるなど、地域の個性が表れています。

その他、市内の古い民家には稻荷(狐)を屋敷神としている場合が多く、狐は田の神の使いだったといわれていることから農業が中心だった暮らしを知ることができます。



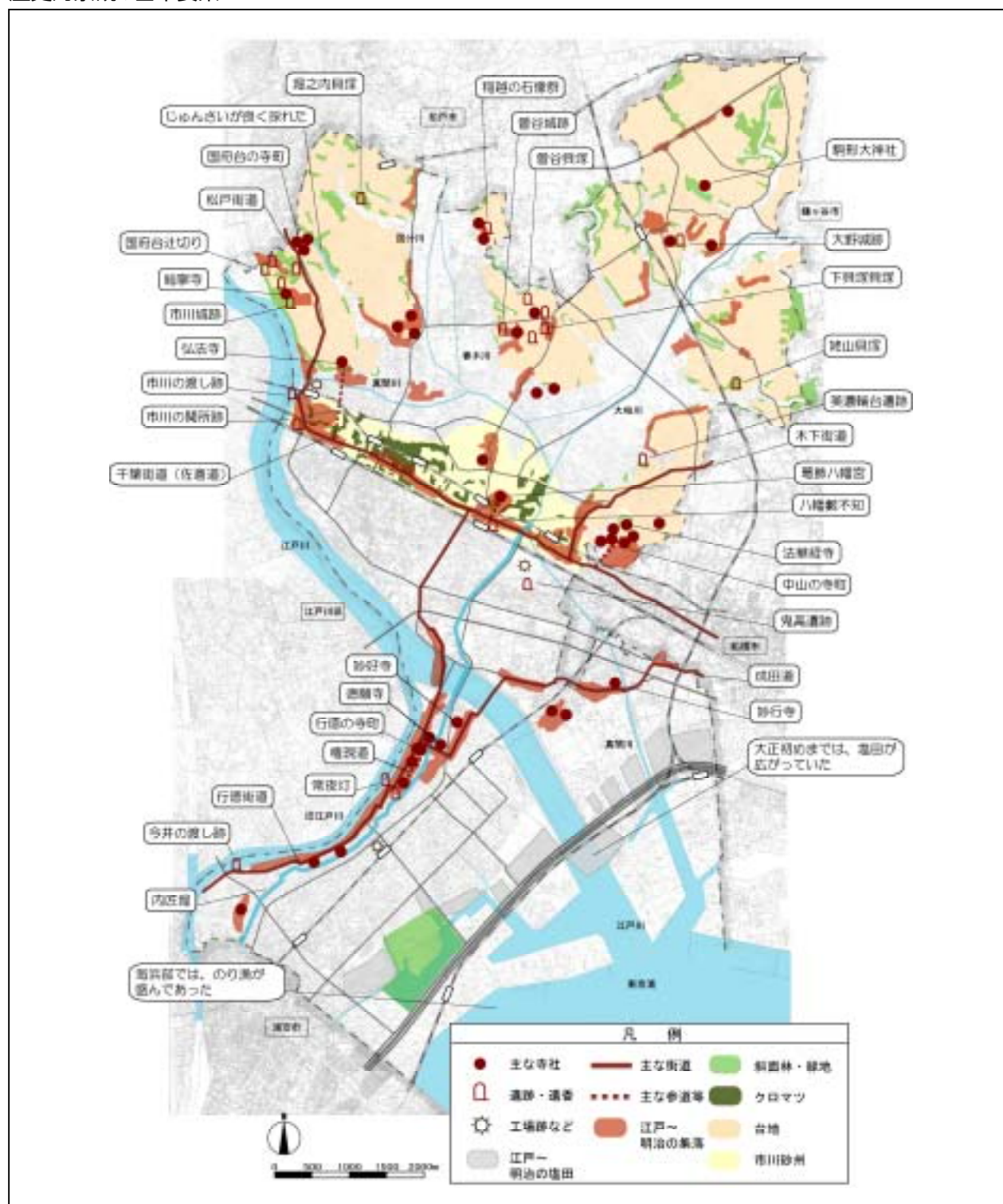
○まちなかの石碑

4) 文人が来遊し、多くの文学作品に描かれた市川

本市は江戸の近郊として歴史と景勝に恵まれた江戸庶民の行楽地として知られていました。国府台の風光と古戦場、真間の紅葉と手児奈の旧跡を訪れたり、八幡から中山への寺社巡り、さらに行徳から成田不動尊、鹿島神宮へと数多くの文人墨客や武士町人が往来していました。

そして多くの紀行文、詩歌、絵画の作品が残されています。万葉集に伝えられた真間の手児奈の物語から始まり、近世に入ると松尾芭蕉や小林一茶など、近代文学者では幸田露伴や永井荷風、北原白秋など、本市は文人墨客に好まれ多くの文学作品に描かれています。

歴史的景観の基本要素



【3】 まち並みの景観

1) まちの骨格をつくる道路

まち並みは道路に沿ってつくられています。市内にも国道14号を中心とする幹線道路から、人々の身近な公共空間となる生活道路まで網の目のような道路網が形成されています。

市の中心部では交通の往来も多く、沿道には様々な建物が立地しています。一方、北部の道路では台地沿いの斜面林などの眺望を得ることができます。また、市川砂州上の市街地には狭く曲がりくねった昔ながらの道も残されており、懐かしい道路の景観を見ることができます。

今後は、東京外かく環状道路に代表される都市計画道路の整備などによる新たな道路景観づくりを進めていくことが求められています。



○都市計画道路(3.4.18号)

2) 地域の成り立ちの中で育まれた多様な住宅地

市内には台地や低地に広がる古くからの市街地や、新たに開発された市街地など、それぞれ地域固有の成り立ちのなかで育まれてきた多様な市街地が広がっています。

北西部の真間川沿いや中山法華経寺周辺などの住宅地は、風致地区に指定され、緑が多く歴史性も垣間見られるまち並みとなっています。一方、総武本線から南側は、戦後の人口増加に対応すべく住宅が急増したため、建物などが密集したまち並みとなっています。こうしたまち並みにも手入れの行き届いた路地の風景や昔懐かしい地域の風景が見られ、近年では、オープンスペースや緑化に配慮した大規模集合住宅なども増えています。



○低層のまち並み(八幡)



○中高層のまち並み(行徳)

3) 人々の交流の場となっている駅前の商業地

市内には鉄道7路線16駅が整備されており、特にJR総武本線の本八幡駅や市川駅は本市の中心的な商業地となっています。また、営団地下鉄東西線の行徳、南行徳、妙典駅などを含めた駅前地区は人々が集まる交流の場となり、まちの活気と人々で賑わう景観が見られます。しかし、これらの駅前地区の一部には、放置自転車や屋外広告物など様々な要因によって、景観が阻害されているところもあります。

建物が密集し防災上の問題も抱える市川駅南口や本八幡駅北口では、現在、市街地再開発事業が進められています。



○本八幡駅前の商業地

4) 人々の潤いの場となっている公園

市の北部には、地形や自然環境、さらには歴史性を生かした公園（里見公園、じゅんさい池公園、大町公園、姥山貝塚公園など）などが整備されており、人々の自然とのふれあいの場になっています。

中部や南部には、江戸川河川敷や鴨場の緑地をはじめ、地域の人々が身近な緑とふれあい、憩いの場となる都市公園（行徳駅前公園、南行徳公園、妙典公園など）があります。



○里見公園



○南行徳公園

5) 産業活動を支える工業地

かつて総武本線の南側には多くの工場が立地し、市の産業活動を支えてきました。現在では業種転換や移転などによって、内陸部の工場は減少（工場跡地には大規模な集合住宅が立地）していますが、現在は臨海部や京葉道路沿いを中心に多くの工業地が広がっています。これらの工業地も本市になくてはならない産業風景となっています。

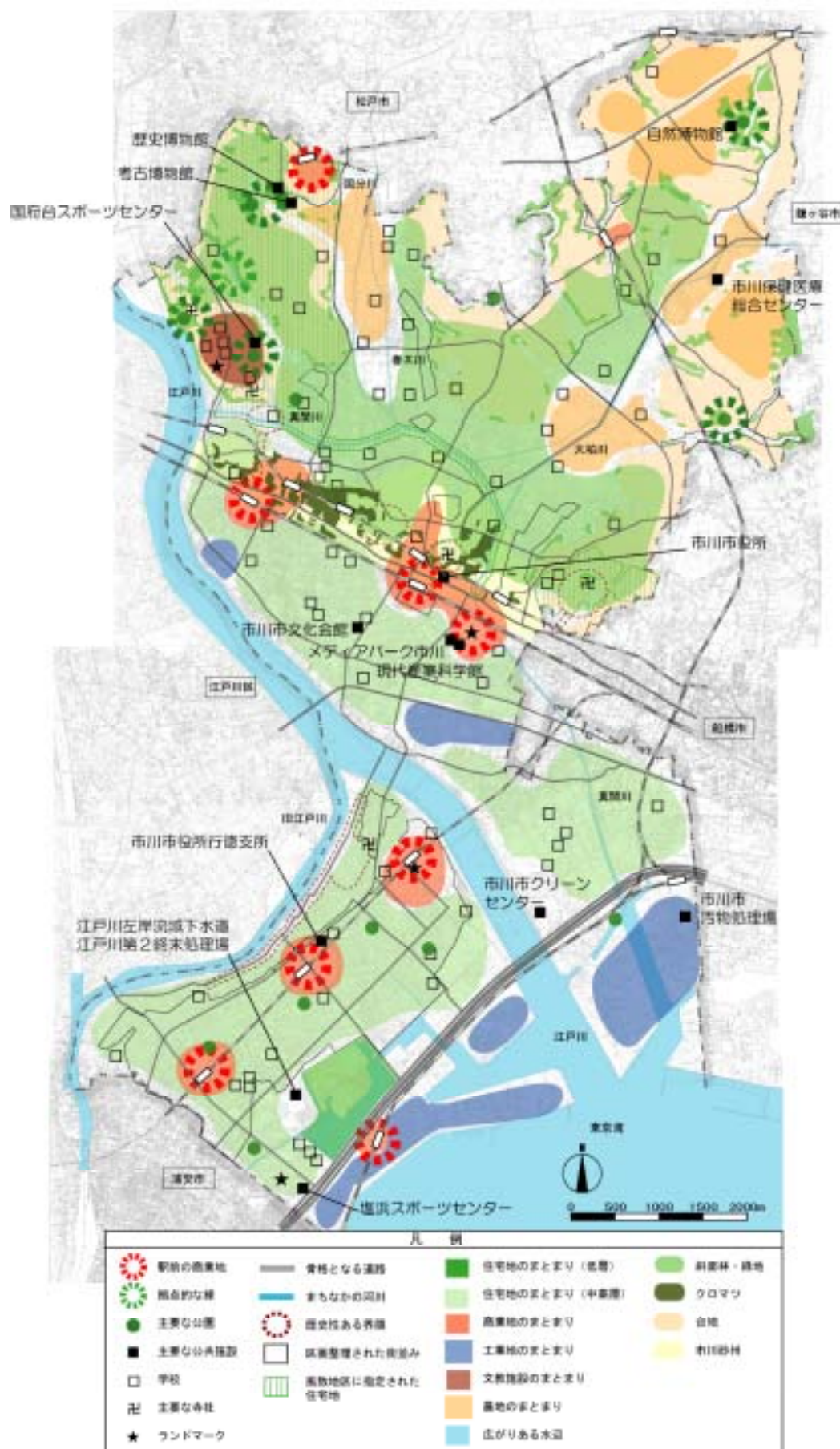


○臨海部の工業地（行徳）



○京葉道路沿いの工業地（田尻）

まち並みの基本要素



【4】活動のある景観（生活風景）

1) 人々の活動や生活風景

まちの中では、賑いやコミュニティ活動など人々の生活する姿や活動がなければ、景観的な魅力は生まれてきません。市内には学校や寺社も多く、春先の入学式、卒業式、秋の運動会、七五三などの季節を代表する行事をいたるところで見ることができます。こうした身近な生活風景がまちの景観に彩りを添えています。



○手児奈のほおずき市(真間)



○入学式の風景(行徳小)

2) 農業や漁業などの生産活動

大町に広がる梨畑や市街地内に点在する生産緑地では農業が営まれています。梨栽培は8月中旬頃から収穫が始まり、大町街道（通称 梨街道）沿いは梨販売で賑います。

行徳の海辺では三番瀬を主な漁場として浅海養殖業、カニ、カレイなどを漁獲する固定式さし網漁業、アナゴ筒漁業、また、東京湾を漁場としたカレイ、スズキなどの小型底引き網業、サヨリなどを漁獲する船引き網業などが営まれています。

これらの生産活動も本市を特徴づける貴重な景観要素となっており、特に市川ナシと江戸前のノリは大切な名産品になっています。



○梨の出荷風景(大町)



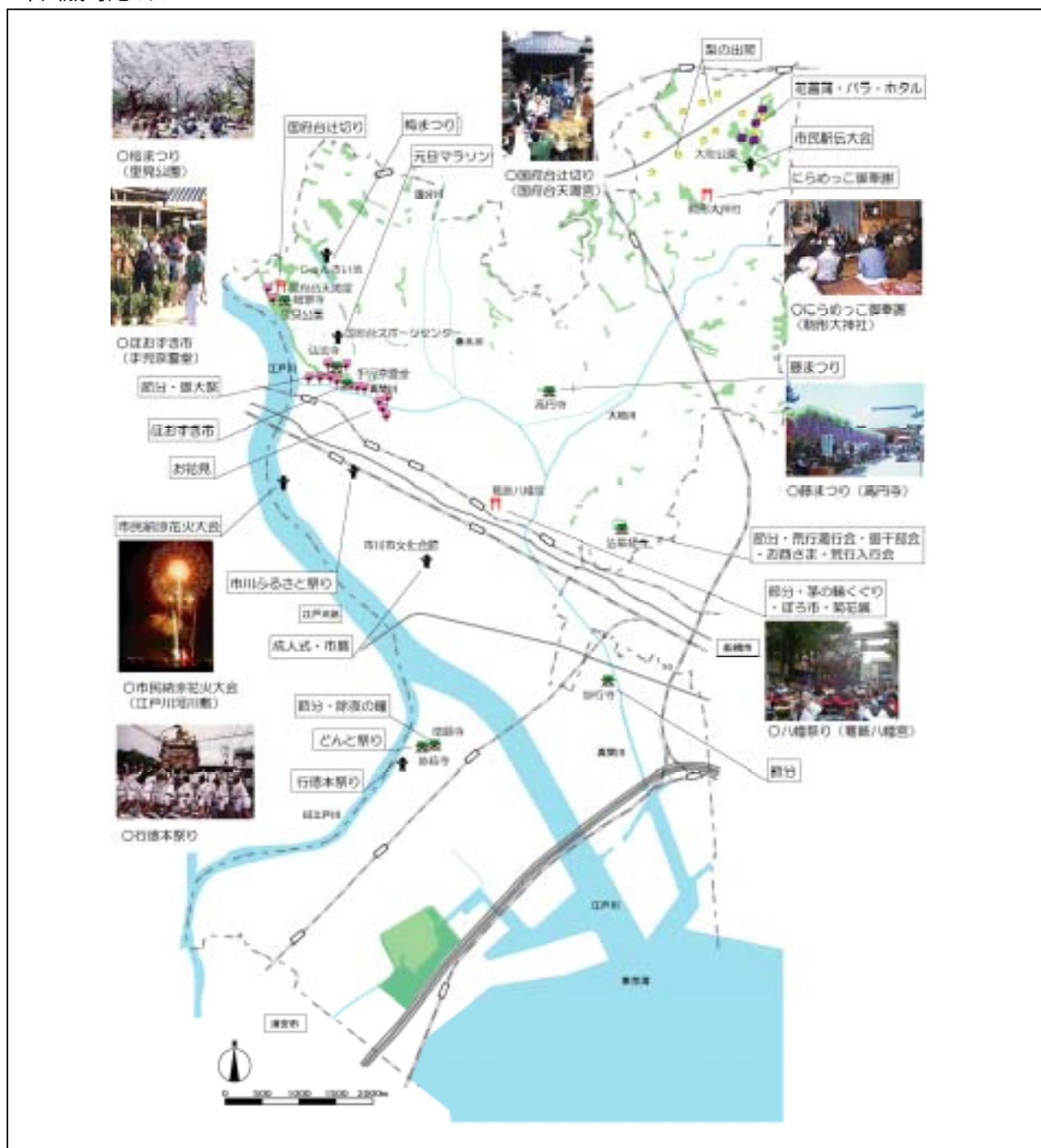
○海苔づくり(行徳)

3) 伝統行事

市内にある多くの寺社を中心に古くから伝わる伝統行事が多数行われています。国府台には、かつて日本各地で伝承されていたムラに悪霊や病気が入るのを四つ辻（境界）で処断する「辻切り」が今もなお残り、大野にある駒形大神社のにらめっこ御奉謝（おびしゃ）、行徳の本祭りなど個性豊かな民俗・行事・芸能として受け継がれています。

また、新年の消防出初式や夏の夜を彩る江戸川の花火大会、市民同士の心のふれあいを目的とした市民まつりなど、季節に溶け込んだ行事も数多くあり、そこに映し出される人々の賑いの風景が見られます。

市川歳時記マップ



1月	元旦マラソン、消防出初式 成人式、辻切り、にらめっこ御奉謝	7月	ほおずき市、ホテル鑑賞会、ふるさと祭、 七夕まつり
2月	節分、荒行満行会、駅伝大会	8月	花火大会、ナシの出荷
3月	卒業式、梅まつり	9月	総合防災訓練、ボロ市（農具市）
4月	入学式、お花見、花まつり（各寺院等）、 春季御大祭、御千部会、美術展	10月	秋季御大祭、行徳本祭、バラ園開花
5月	菖蒲湯、藤祭、ゴミゼロ運動	11月	お西さま、荒行入行会、市民まつり、植木市 七五三、菊花展
6月	県民の日、花菖蒲、茅の輪くぐり	12月	ゆず湯、とんど祭、茅の輪くぐり、除夜の鐘

3 景観まちづくりにおける問題点と課題

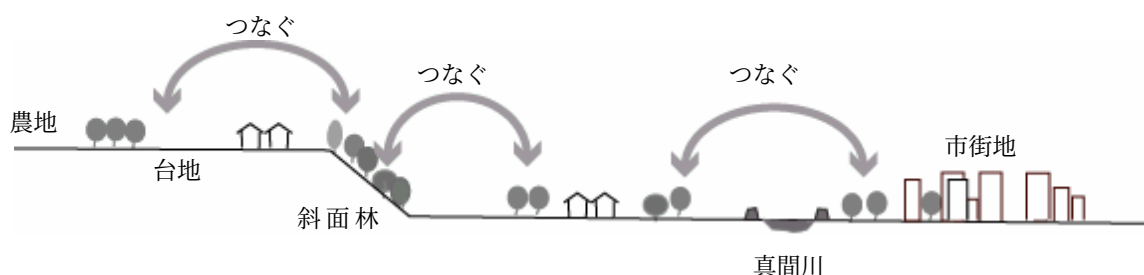
本市の景観の現状における問題点と景観まちづくりの課題は、次のように整理することができます。

【1】 恵まれた自然景観を保全し、 生かし、さらに増やしていくこと

本市は、海、大小の河川、台地や谷津などの変化のある地形によって形成された斜面林や農地、市街地のクロマツなど、多彩な自然景観に恵まれています。しかし、近年の市街化の進展などにより、自然景観自体の喪失・減少、さらには市民が日常的に親しむ機会と場が不足するなどの問題が顕在化しています。

一方で、市民の自然環境への関心は高まってきており、恵まれた自然景観をできるだけ「守り」、市民が日常的に親しむ条件を整備するなど「生かす」視点を重視することが求められています。

また、市街地内の住宅地、商業施設、工場などの緑化を推進するなど、身近な自然環境を積極的に「増やしていく」ことも重要です。



【2】 歴史的な景観を大切にし、 固有の歴史を生かした景観を育て、伝えること

歴史に培(つちか)われた景観資源を大切に育んでいくことは、都市や地域が本来持っている特性を尊重し、そこにしかない個性を伸ばしていくことです。画一化されがちな現代の都市空間において、このことは特に重視される必要があります。

寺社や参道などの歴史的まち並み、旧街道の風情、また身近なまちかどの祠や石碑など、市街化の進展によって失われつつある歴史的資産に対する市民の関心を高め、現代に生きる景観として「大切に」しながら、地域固有の歴史性を「生かした」景観づくりの意識を「育て」つつ、後世に「伝えて」いくことが重要です。

【3】 多彩な個性のある

まち並みの発展を図ること

本市は、駅前に集積する商業地や地域の商店街、南部の海沿いの大規模工場群、市街地内に展開する小規模工場と高密度に展開する住宅地、北部に広がる緑豊かなゆったりとした住宅地、総武本線の主に南側の中高層住宅地、歴史的蓄積のあるまち並みなど、多彩な個性ある地域が集まって構成されています。

しかし、近年、市街地の一層の密集化や画一的デザインの建築物の増加、周辺環境に調和しない大規模建築物の増加、放置自転車やゴミ集積所などの景観阻害要素の顕在化などが問題となっています。

こうした景観の悪化を改善するとともに、地域の個性を「生かし」たまち並みの「発展」を図ることが求められています。

【4】 人々の生活から醸^{かも}しだされる

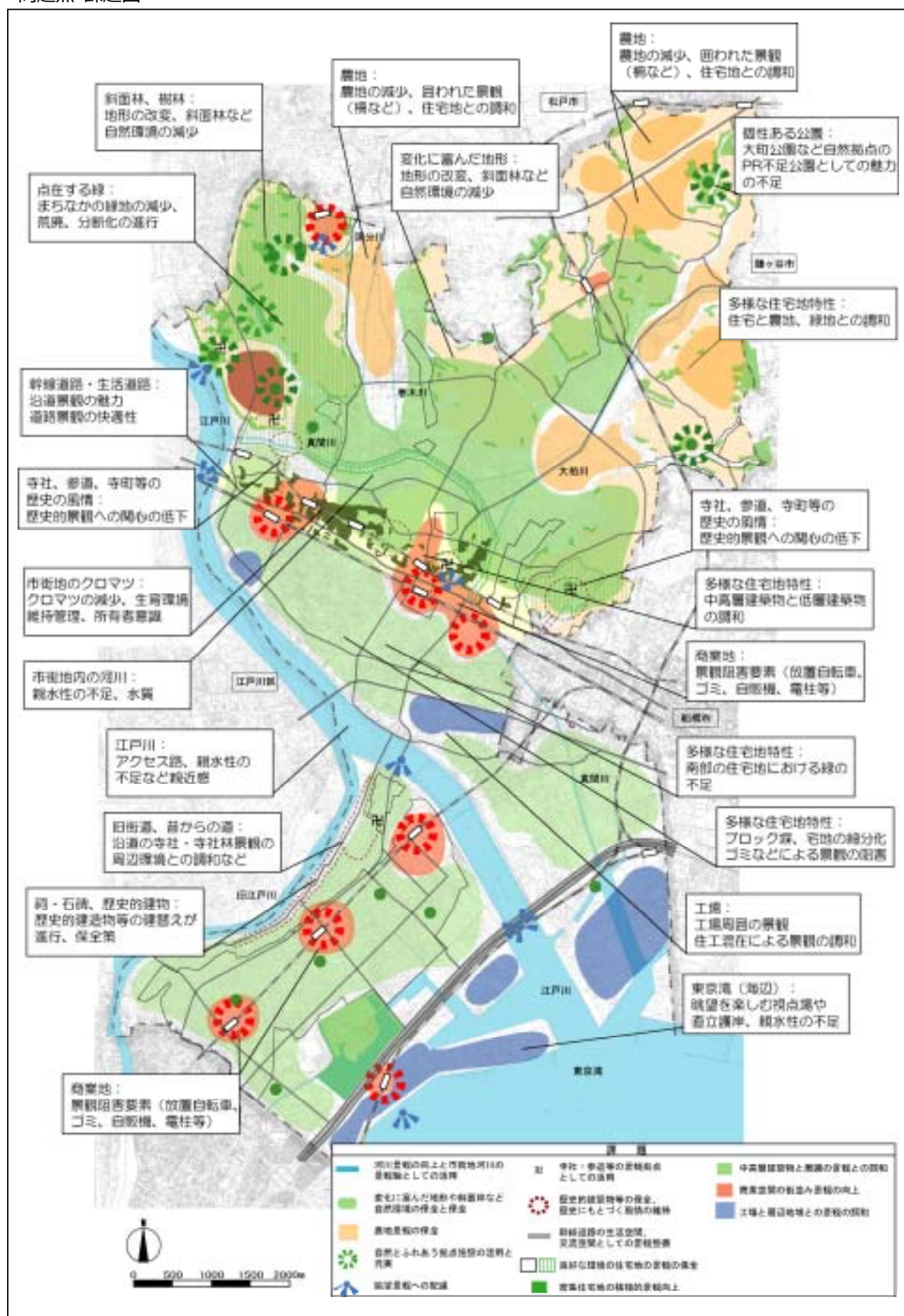
生き生きとした景観を創り出すこと

戦後の人口急増や生活様式の変化などにより、人々の地域に対する関わりが全般的に薄くなっており、地域でのまつりやイベントなどの活力の低下や地域における暮らしのマナーの乱れ（ごみのポイ捨てなど）が見られるようになっていきます。また、プライバシーの確保や防犯を意識した高い塀も増加しています。

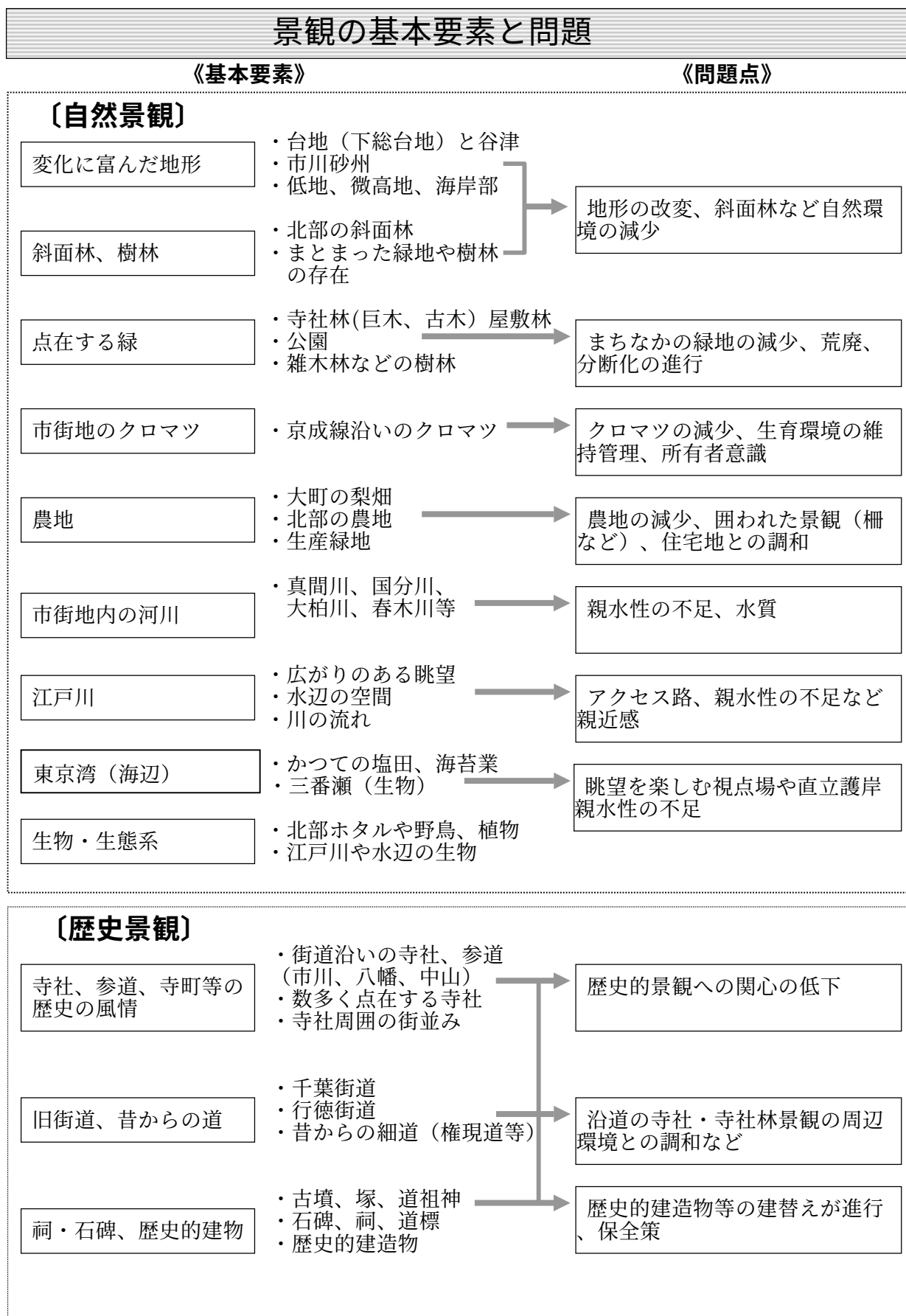
景観は、このような人々の暮らし方によって大きな影響を受けるものであり、まちとの関わりや人との関わり（活動）のなかで育まれるものでもあります。そのため、個人の敷地のみで景観を考えるのではなく、まちとの関わりや人との関わり（活動）のなかで景観を育むという姿勢が求められます。

地域の環境に対する人々の積極的な取り組みをきっかけとして、生き生きとした景観と、安全で安心できる地域社会を「創り」出し、まち全体を良くすることが必要です。

問題点・課題図



■景観の基本要素と問題、景観形成の具体的課題



市全体で見た景観形成の主要課題

《基本的課題》

1) 河川景観の向上と市街地河川の景観軸としての活用

2) 変化に富んだ地形や斜面林など自然環境の保全

3) まちなかの緑の保全と創出

4) 農地景観の保全

5) 自然とふれあう拠点施設の活用と充実

6) 眺望景観への配慮

《課題解決の方向》

- ・ 河川空間へのアクセス路の充実
- ・ 市街地景観の先導役としての景観軸づくり

※河川の浄化などの環境施策との連携

- ・ 地形改変への対応方策の確立
- ・ 散策路でつなぐ、景観軸として充実するなど自然環境の保全と積極的活用

※緑地の保全、開発規制などの施策との連携

- ・ 個々の宅地内樹木の維持
- ・ 宅地内の緑の創出と増加

※保存樹木指定等緑化施策との連携

- ・ 農地保全への理解を高める
- ・ 市民農園などへの活用

※生産緑地、農業振興など農業・農地施策との連携

- ・ 自然の拠点施設などへのアクセス路の充実
- ・ 自然(水, 緑, 生物, 土等)とふれあえる拠点づくり

※まちづくり、公園、施設計画への景観の視点の導入

- ・ ビューポイント(視点場)の整備
- ・ ガイドライン等による誘導と事業者の協力

1) 歴史に対する関心の醸成や伝承

2) 寺社・参道等の景観拠点としての活用

3) 歴史的建築物等の保全、歴史にもとづく風情の維持

- ・ 情報提供やイベントの充実など

※文化事業との連携

- ・ 案内板、サインを充実
- ・ 参道の歴史的風情を残すまち並みづくり

- ・ 歴史的建築物等の保全策の確立
- ・ 歴史をふまえた建築デザイン等のルール化

※文化財保存施策等との連携

景観の基本要素と問題

《基本要素》

《問題点》

〔まち並み〕

幹線道路・生活道路

- ・新たに加わる要素（外かん道路）
- ・幹線道路、生活道路

沿道景観の魅力
道路景観の快適性

多様な住宅地特性

- ・北部の緑の多い住宅地
- ・風情ある中心市街地
- ・南部の密集住宅地
- ・低層住宅と中高層住宅の混在
- ・計画的な中高層住宅地
- ・歴史性のある街並み

住宅と農地、緑地との調和

南部の住宅地における緑の不足

ブロック塀、宅地の細分化
ゴミなどによる景観の阻害

まちの顔となるランドマーク
や地域資源などの認識

中高層建築物と低層建築物
の調和

商業地

- ・駅前商業地区
- ・近隣商店街
- ・駅前再開発事業の計画

商業地、商店街のまち並みの
魅力の低下

景観阻害要素（放置自転車、
ゴミ、自販機、電柱等）

工場

- ・南部の工場地帯
- ・南部の住工混在地域

工場周囲の景観
住工混在による景観の調和

個性ある公園

- ・北部の自然を生かした公園
- ・南部の大規模都市公園

大町公園など自然拠点のPR不足
公園としての魅力の不足

〔活動〕

多様な住民特性

- ・昔から住む住民
- ・新たに転入した住民

コミュニティの場や機会
地域のコミュニティの活力な
どの低下

市民活動

- ・各種市民活動の活発化

伝統行事等

- ・まつり、ぼろ市等
- ・街回遊展など

伝統行事や市民活動に対す
る市民の関心

市全体で見た景観形成の主要課題

《基本的課題》

1) 幹線道路の生活空間、交流空間としての
景観整備

2) 良好な環境の住宅地の景観の保全

3) 密集住宅地の積極的景観向上

4) 中高層建築物と周囲の景観との調和

5) 商業空間の街並み景観の向上

6) 工場と周辺地域との景観の調和

7) まちのシンボルや憩いと交流の空間づくり

8) 景観阻害要素の改善

1) コミュニティの中心、地域の景観の拠点と
なる場づくり

2) 景観づくりに関する市民の関心の醸成、
市民活動の活性化

《課題解決の方向》

- ・ 地域の生活空間として歩道を充実
- ・ 地域交流の軸としての再生・整備

※道路施策における歩道、緑化充実など景観
の視点の充実

- ・ 個性ある周辺と調和(建築デザインの配慮)
- ・ 緑化や交流の場づくり

- ・ 緑化、建築・看板等の周囲との調和

- ・ 高さ・デザインなど、周辺住宅地、
自然環境との調和

- ・ だれもが安全で快適に歩ける空間づくり
- ・ 個々の店舗の活力と周辺への調和
- ・ 憩いと交流の場を充実

- ・ 緑化や色彩・素材による周辺との調和

- ・ 公共施設の先導的な景観づくり
- ・ 地域特性を生かした施設づくり

※公共施設整備における住民参加の促進

- ・ ゴミ集積場、バス停その他まちの設備の景観
向上、清掃など

- ・ コミュニティの集いと憩いの場づくり
- ・ 人々の活動による景観まちづくりの推進

- ・ 景観まちづくりに関する情報提供
- ・ 市民活動支援のしくみの確立
- ・ 活動の育成とネットワーク化